参考資料２

【地区別の課題整理】

0. 地区別の課題整理（データの見方）
1. 石巻地区
2. 河北地区
3. 雄勝地区
4. 河南地区
5. 桃生地区
6. 北上地区
7. 牡鹿地区

地区別の課題整理　※データの見方

＜算出方法＞
- 「表　鉄道駅･バス停別のクラス分類」をもとに、鉄道駅･バス停のGISデータに対し、便数に合わせたクラス属性を各地物に付与。
- その後、鉄道駅･バス停のGISデータに対して5つの徒歩圏道路バッファを算出し、「表　空間的公共交通サービスレベル」をもとに、鉄道駅･バス停クラスに応じたA～Gのサービスレベルを各バッファデータに設定し、「空間的公共交通サービスレベル」の低い方から順に重ね図を作成。

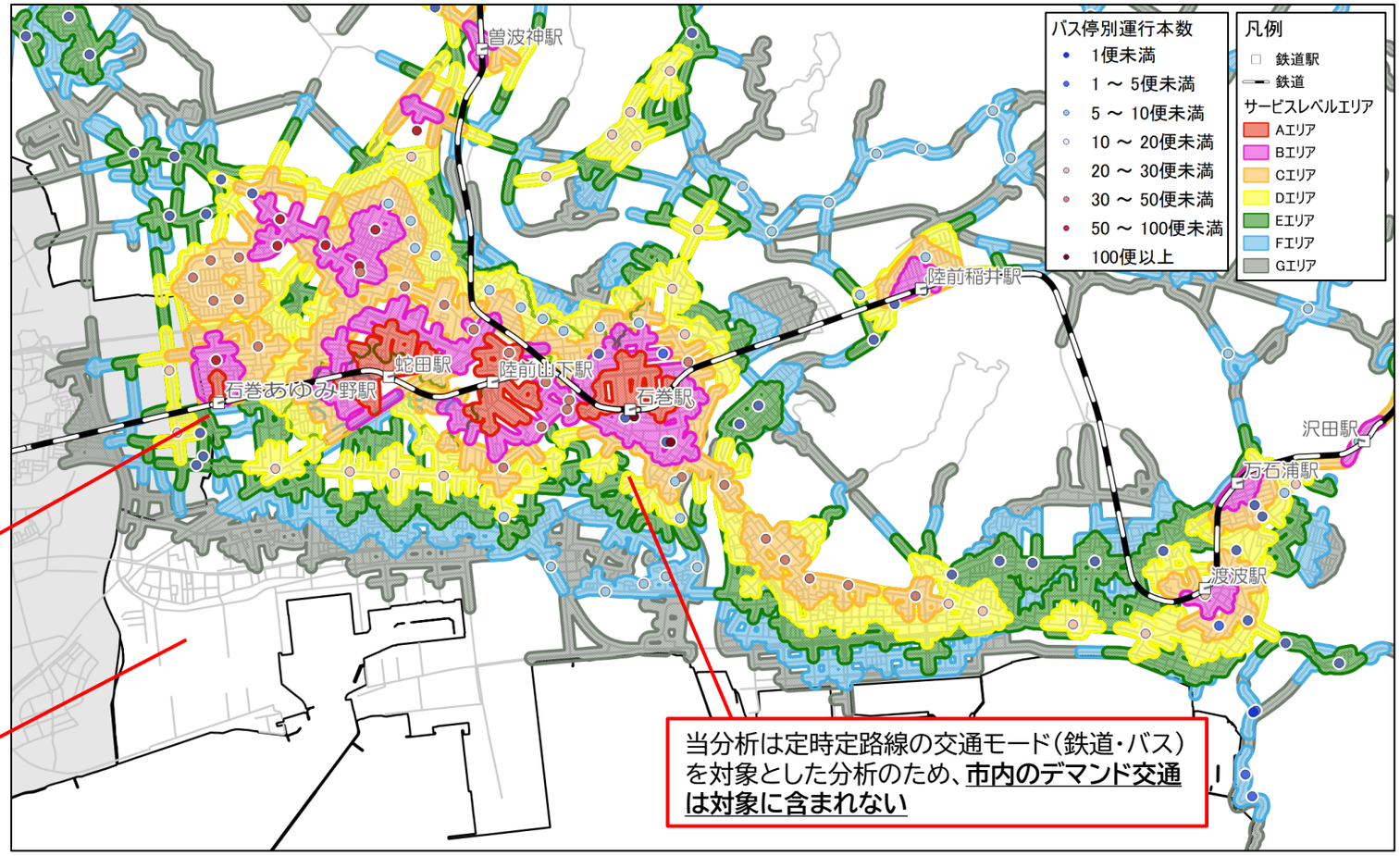
表　鉄道駅・バス停のクラス分類

1日当たり運行便数	鉄道駅	バス停	鉄道駅の例	1時間当たりの片道本数の目安
100便以上	クラス１	クラス３	（対象なし）	1時間に数本以上
50～100便未満	クラス１	クラス３	石巻駅	1時間に2本以上
30～50便未満	クラス２	クラス４	蛇田駅	1時間に1本程度
20～30便未満	クラス３	クラス５	渡波駅	1～2時間に1本程度
10～20便未満	クラス４	クラス６	和渕駅	2時間に1本程度
5～10便未満		クラス７		1日数便
1～5便未満		クラス７		1日1～2便
1便未満		クラス８		週に数便（運行しない日がある）

表　空間的公共交通サービスレベル

鉄道駅・バス停留所クラス	鉄道駅・バス停留所からの距離				
	250m圏	500m圏	750m圏	1,000m圏	1,250m圏
クラス１	A	A	B	C	D
クラス２	A	B	C	D	E
クラス３	B	C	D	E	F
クラス４	C	D	E	F	G
クラス５	D	E	F	G	G
クラス６	E	F	G	G	G
クラス７	F	G	G	G	G
クラス８	G	G	G	G	G

＜データの見方＞
- 本図は、**鉄道駅･バス停の運行本数･距離を組み合わせ**、公共交通の利用しやすさをA～Gの7段階で評価し、地図上に徒歩圏道路バッファとして整理したもの。
- A(赤)に近いほど、**運行本数が多く、駅･バス停にも近いことから公共交通を利用しやすい地域**と評価。一方、G(灰)に近いほど運行本数が少なく、駅･バス停から遠い地域となる。
- 上記のことから、同じ鉄道駅･バス停からの距離であっても運行本数が多いほど評価が高く、同じ運行本数であっても駅･バス停から離れるほど評価が低くなる。



駅･バス停からの徒歩圏道路バッファを整理しているため、例えば鉄道駅では駅の北側･南側で公共交通の利用しやすさが大きく異なるものも存在(石巻あゆみ野･渡波駅など)

色が付いていない地域は、鉄道駅･バス停からの距離圏外(1,250m超)であり、公共交通へのアクセス性が特に低い地域

当分析は定時定路線の交通モード(鉄道･バス)を対象とした分析のため、**市内のデマンド交通は対象に含まれない**

図　定時定路線型公共交通サービスレベル

1. 石巻地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	97,642人（市全体に占める割合：約70.8%）
公共交通カバー人口※1	76,250人（地区の人口に占める割合：78.1%）
運行する公共交通	鉄道：JR石巻線、JR仙石線、JR仙石東北ライン バス：ミヤコーバス12路線 その他：萩浜地区住民バス、稲井地区乗合タクシー2路線、雄勝地区住民バス1路線、桃生地区住民バス1路線、北上地区住民バス、山の手地区乗合タクシー、水押・開北・大橋・水明地区乗合タクシー、河南地区乗合タクシー、網地島ライン

※1：鉄道駅500m、バス停300m、乗合タクシー等の運行区域に含まれる人口

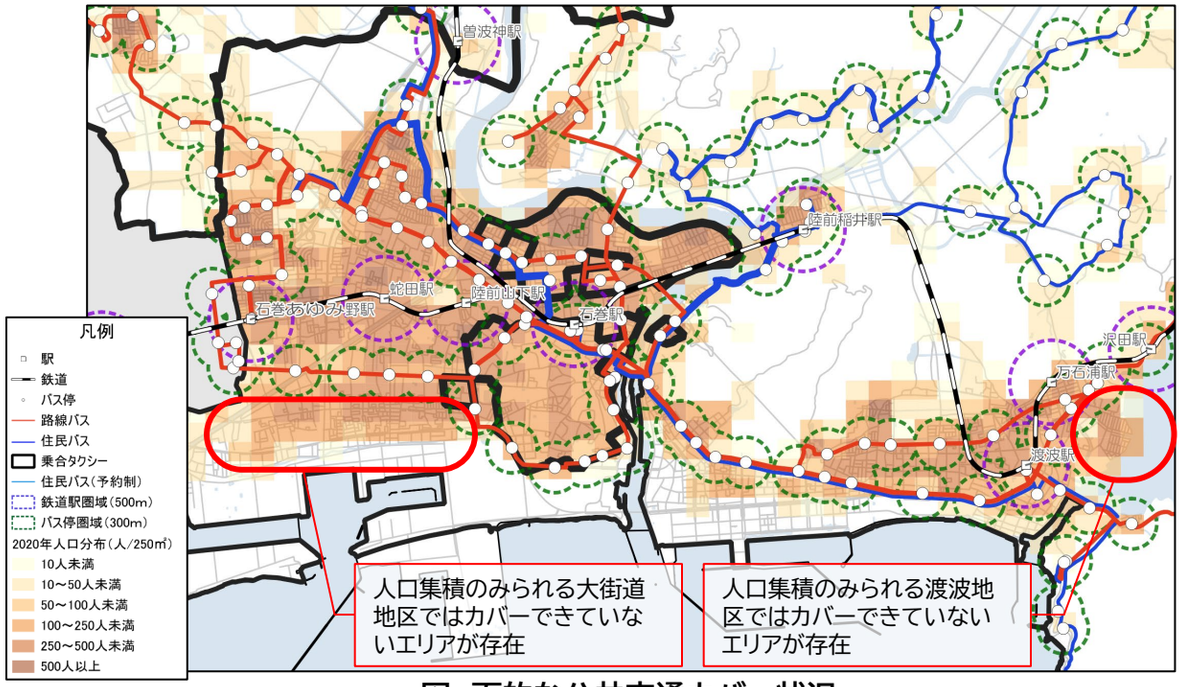


図　面的な公共交通カバー状況

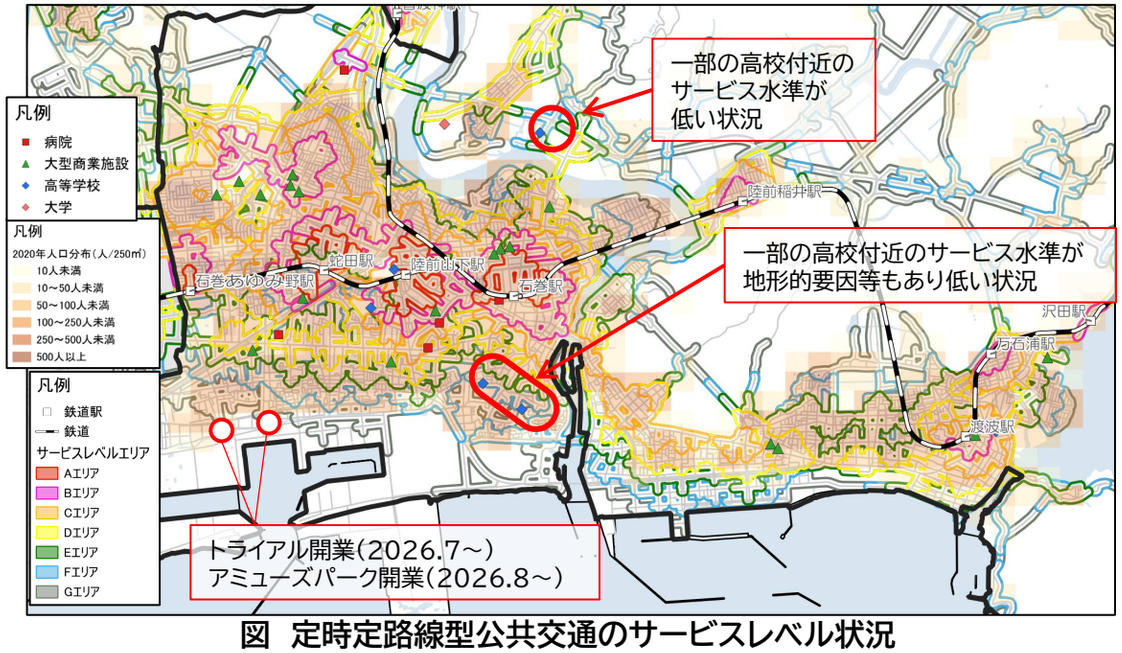


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、居住者の大半が地区内で買物・通院しており、他地区居住者の移動においても目的地となっている状況。
- 通学移動実態は、地区内移動が約9割であるほか、市内の各地区から主要な通学先となっている状況。また、市外（主に東松島市）からの通学も多くみられる状況。

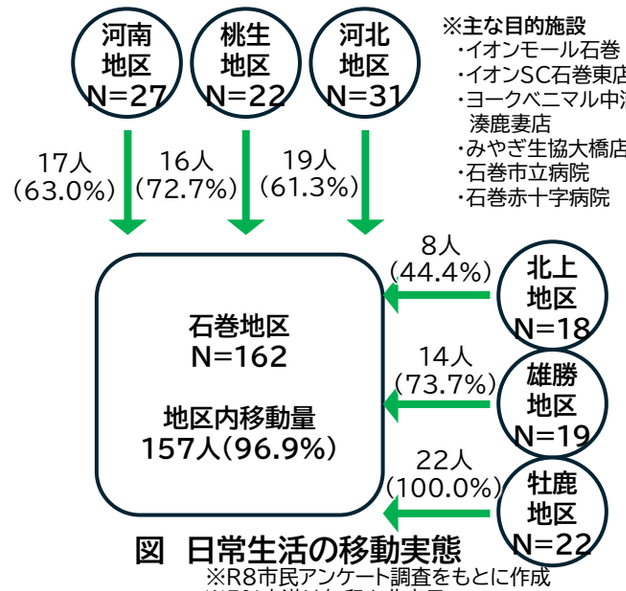


図　日常生活の移動実態

※R8市民アンケート調査をもとに作成
※5%未満は矢印を非表示

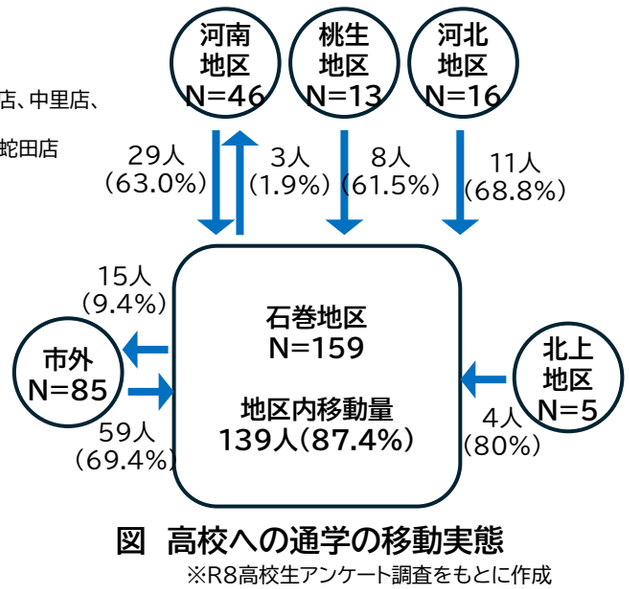


図　高校への通学の移動実態

※R8高校生アンケート調査をもとに作成

■地区の現状

○面的カバー・サービスレベルの視点

- 人口集積のある大街道・渡波地区の一部において、公共交通ではカバーされない範囲が存在。
- 特に渡波地区は都市型居住促進エリアにも含まれることから、居住環境の魅力向上に向けた利便性の向上が必要。

○地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内 ： 主要施設への運行は概ねカバーされているものの、一部の高校付近でサービスレベルが低い。ただし、石巻高校と桜坂高校については、地形的な要因もあって、バス路線を設定するには制約がある。
- 地区間 ： 地区外からのニーズが多く発生しており、路線バス・住民バス等で対応している。仙台・東松島市方面へ向け、石巻駅などから市外への通学が発生しているが、駅までの移動手段の多くが、徒歩・自転車・送迎である。

○その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 立地適正化計画では、石巻駅周辺・石巻河南IC周辺・渡波駅周辺を都市拠点として位置づけており、都市機能・居住の誘導と連動した拠点間ネットワークの形成が求められている。
- 中瀬公園・東中瀬橋や石ノ森漫画館の改修など、石巻駅～旧北上川エリアの水辺空間が散策路として整備。
- 被災市街地復興事業として、新門脇地区周辺に「トライアル石巻店」や「アミューズパーク石巻」などの開業が相次ぎ、新たな移動ニーズが発生するものと想定されるが、現状では公共交通でカバーされていない。

■市民アンケートの地区別分析

- 他地区と比較すると「直近3ヵ月以内の公共交通の利用率」が高く、市内では使われているエリア。
- 過去1ヶ月以内に移動手段等の都合で外出を諦めた経験の有無で、「1回以上ある」が他地区よりやや高く、理由として「自分で運転できない」「利用したい時間帯に便がない」と回答。
- 改善要望として「便数の増加」が多い。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
都市拠点や都市型居住促進エリア、復興市街地の交通機能の強化が必要	○石巻駅・石巻河南IC周辺・渡波駅周辺等の都市拠点を結ぶ公共交通軸の強化 ○新門脇・大街道・万石浦地区等の交通空白地における利便性の確保
鉄道駅アクセスや通学ニーズに対応する利便性向上が必要	○高校通学や新たな移動ニーズに対応した運行への見直し

2. 河北地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	9,901人（市全体に占める割合：約7.2%）
公共交通カバー人口	9,901人（地区の人口に占める割合：100.0%） ※休日の場合：2,248人（地区の人口に占める割合：22.7%）
運行する公共交通	バス：ミヤコーバス河北線（石巻あゆみ野駅～飯野川）1日5往復運行。 石巻専修大学線（石巻駅前～ルネッサンス館・飯野川）1日10往復運行。 その他：雄勝地区住民バス、北上地区住民バス、河北地区乗合タクシー、河南地区乗合タクシー

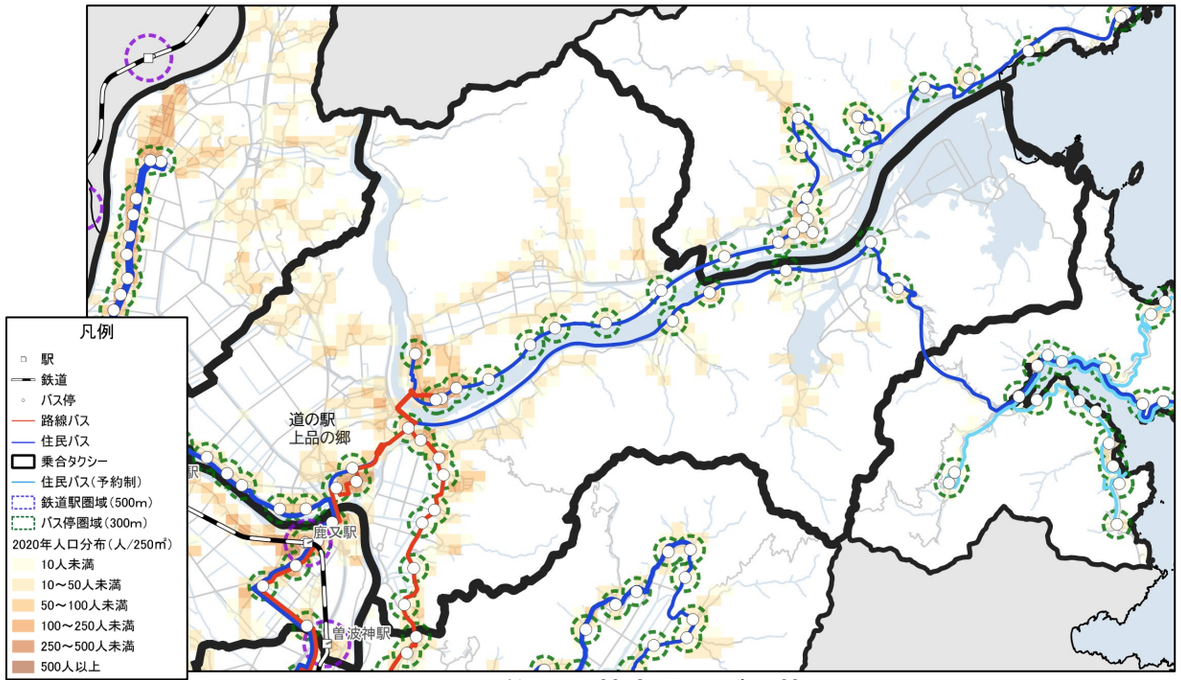


図　面的な公共交通カバー状況

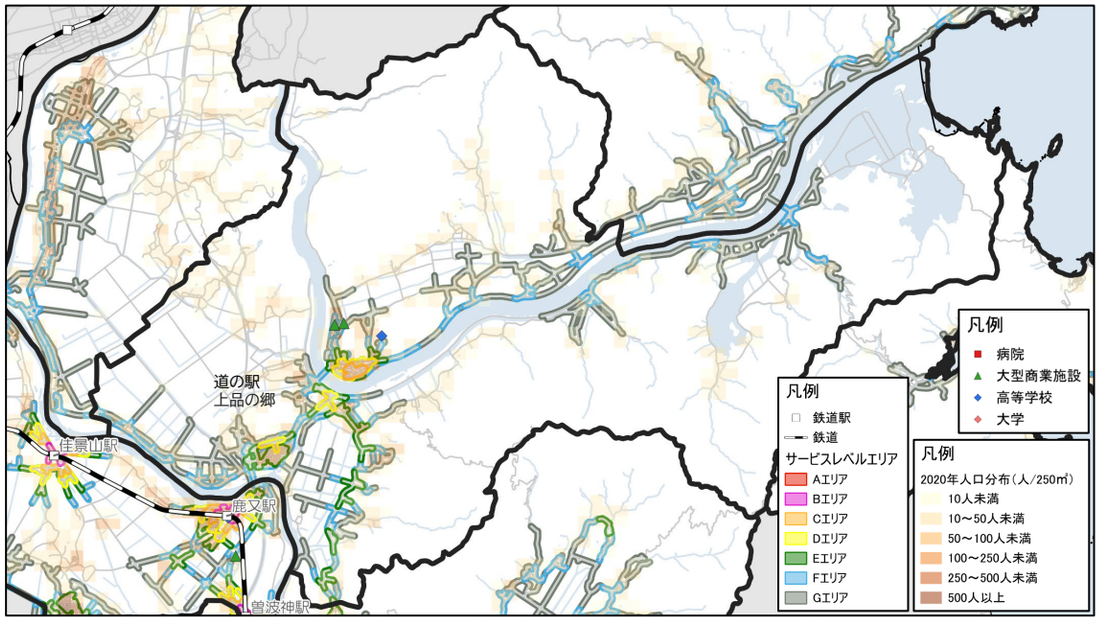


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、隣接する石巻地区のほか、地区内の移動が見られる状況。また、主に隣接地区の居住者の目的地となっている状況。
- 通学移動実態は、地区内に高校がないため、石巻地区や市外へ通学している状況。

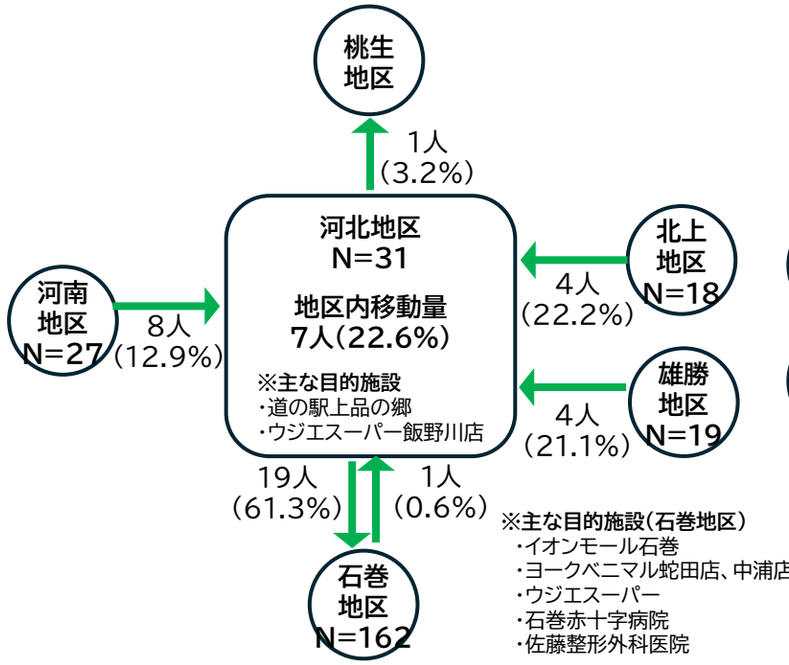


図　日常生活の移動実態
※R8市民アンケート調査をもとに作成

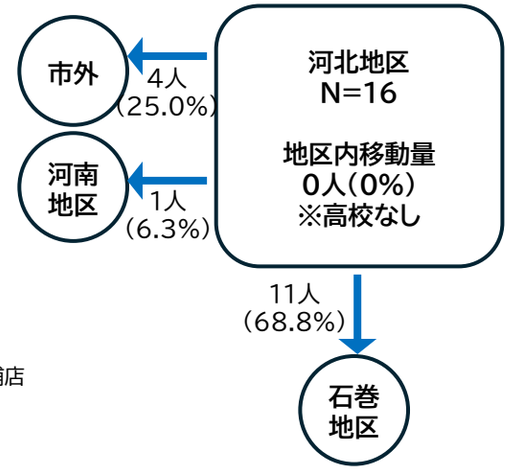


図　高校への通学の移動実態
※R8高校生アンケート調査をもとに作成

■地区の現状

○面的カバー・サービスレベルの視点

- 地区南西部の飯野川地区周辺や、北上川沿いなどに人口集積がみられ、河北地区乗合タクシーが面的にカバーしている。
- 一方、人口集積が多い場所で定時定路線のバスではカバーされていない状況も発生しているほか、同経路を複数の交通モードが運行し競合が発生している（道の駅上品の郷～鹿又駅間など）。

○地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内 ： 河北地区乗合タクシーが平日1日9便運行。一方、乗合タクシー及び雄勝・北上住民バスが平日運行のため、休日は道の駅上品の郷から郊外部の移動手段がない状況。
- 地区間 ： 郊外部からの移動では道の駅等でミヤコーバス路線等に乗り継ぎが必要なことに加え、休日は道の駅上品の郷までの移動手段がない状況。

○その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 市営住宅（川の上・飯野川等）でR7-12にかけて用途廃止に伴い入居者の移転が予定され、人口集積地の居住状況が変化する可能性。

■市民アンケートの地区別分析

- 最後に公共交通を使った時期が「覚えていない」「まったく使ったことがない」が多く、公共交通の利用習慣が低いエリア。
- 河北地区住民バスから乗合タクシーへの移行（2025年4月）により運賃が値上げされており、「運賃が安くなれば利用する」「近くに駅がないので、自家用車が便利」などの意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
地区内交通・地区間交通の乗り継ぎ利便性の確保が必要	○道の駅上品の郷を交通結節点とした運行体系の整備 ○道の駅上品の郷の交通結節機能の強化
休日の移動手段確保の必要性について、検証が必要	○休日における乗合タクシーの運行必要性の検討

3. 雄勝地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	1,079人（市全体に占める割合：約0.8%）
公共交通カバー人口	831人（地区の人口に占める割合：77.0%）
運行する公共交通	その他：雄勝地区住民バス4路線（定時定路型：雄勝線（4.5往復）、区域デマンド型：大須三区線、名振線、水浜線）

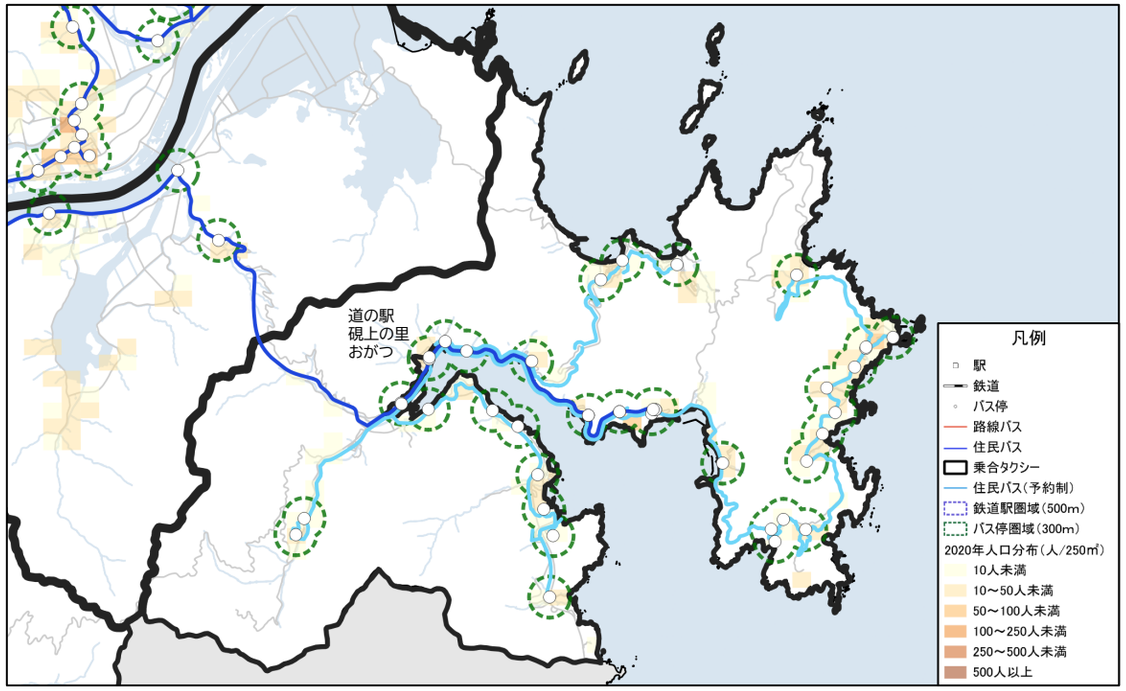


図　面的な公共交通カバー状況

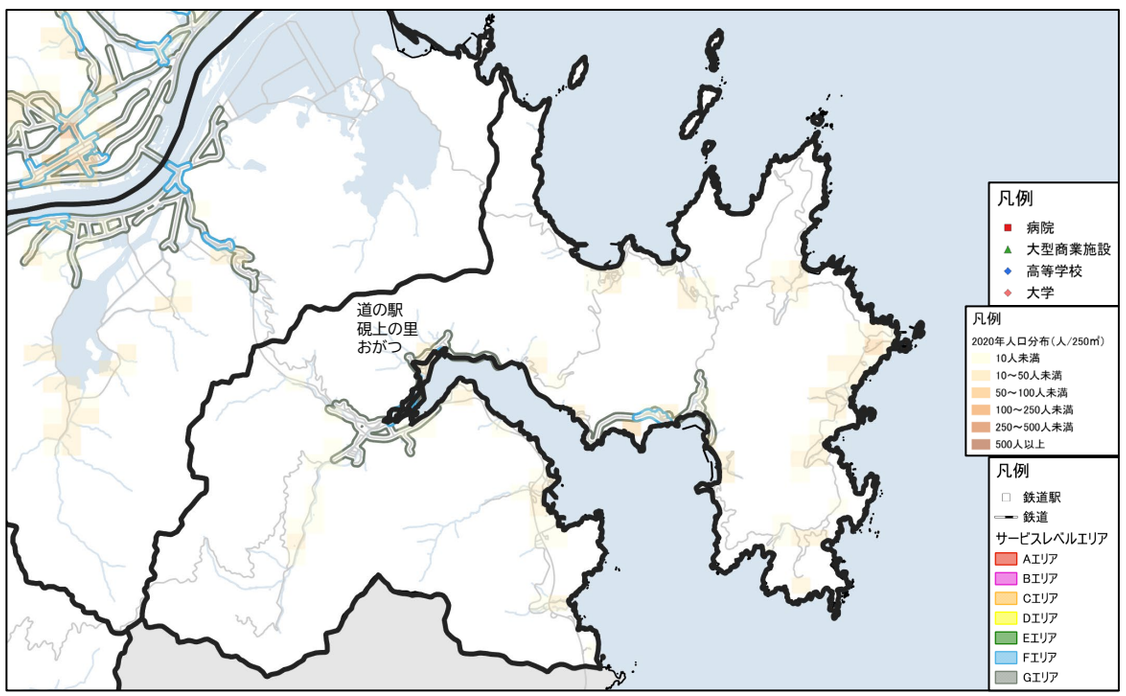


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、地区内に雄勝診療所・道の駅硯上の里おがつなどがあるが、アンケートによると隣接する河北地区、中心部の石巻地区等へ移動している状況。
  ※通学移動実態は回答者なし。

※目的施設（石巻地区）
・サンエー石巻あけぼの店
・ヨークベニマル
・あいのや
・ケーズデンキ石巻本店
・イオンモール石巻
・ビバホーム石巻店
・みやぎ生協
・石巻赤十字病院
・伊藤内科クリニック
・松尾歯科医院
・森消化器内科外科
・亀田内科皮膚科クリニック
・関節外科スポーツクリニック石巻

※目的施設（河北地区）
・道の駅上品の郷
・ウジエスーパー飯野川店

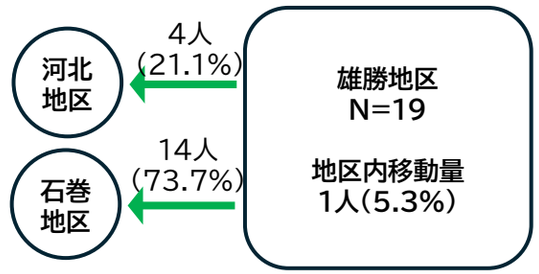


図　日常生活の移動実態

※R8市民アンケート調査をもとに作成

■地区の課題

○面的カバー・サービスレベルの視点

- 雄勝地区住民バス4路線が県道238号線沿いを運行し、地区内の8割弱の人口をカバーしているものの、県道から外れた一部地区などは交通空白地となっている。
- 住民バスの乗継拠点となっている道の駅硯上の里おがつ周辺ではサービスレベルD・Eとなっているが、各路線で運行便数が少ないため、その他の地区ではFまたはGに留まっている。

○地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内：住民バス3路線はデマンド化を図り、雄勝地区中心部へ向けて効率的に運行。
  一方、事業者が利用者から伺った意見として、14時台の下り便を逃すと17:40まで長時間待つ必要がある。
- 地区間：多くの方が石巻・河北地区を目的地として移動しており、道の駅硯上の里おがつで住民バス同士の乗り継ぎをしながらイオンモールや道の駅上品の郷への移動手段として活用されている。
  一方、赤十字病院・イオンモールへは1日1往復と利便性が低く、移動時間に制約が生じている状況。

○その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 震災後、居住者の多くが転居・転出し、人口が大幅に減少したことに加え、少子高齢化の影響もあり、7地区中最も人口が少なく、老年人口割合も高い（59.6%）状況。
- 道の駅硯上の里おがつが地区の経済・情報・交流の中心として位置づけられ、地区振興・観光振興を図る方針。また、雄勝ガーデンパークや移転元地を活用して交流人口・関係人口の拡大を図る取組も示される（第2次総合計画後期基本計画）。

■市民アンケートの地区別分析

- 最後に公共交通を使った時期が6年以上の人の割合が全地区の中で最も多く、公共交通の利用習慣が低いエリア。
- 過去1ヶ月以内に移動手段等の都合で外出を諦めた経験は他地区より多く、その理由として「利用したい時間帯に便がないため」が多い。
- 改善要望として「便数が増える」「自宅近くまで来る」「目的地まで乗換えなしで行ける」などの意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
地区内交通・地区間交通の乗り継ぎ利便性の確保が必要	○地区間交通と地区内交通の接続性の維持・確保 ○時間的空白を補完する移動手段の確保

4. 河南地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	18,730人（市全体に占める割合：約13.6%）
公共交通カバー人口	18,730人（地区の人口に占める割合：100.0%） ※乗合タクシー非運行日の場合：8,283人（地区の人口に占める割合：44.2%）
運行する公共交通	鉄道：JR石巻線、JR気仙沼線 バス：ミヤコーバス河南線（石巻駅前～河南総合支所）1日5往復運行。河北線（石巻あゆみ野駅～飯野川）1日5往復運行。 その他：雄勝地区住民バス1路線、桃生地区住民バス1路線、北上地区住民バス、河南地区乗合タクシー（月・火・金）

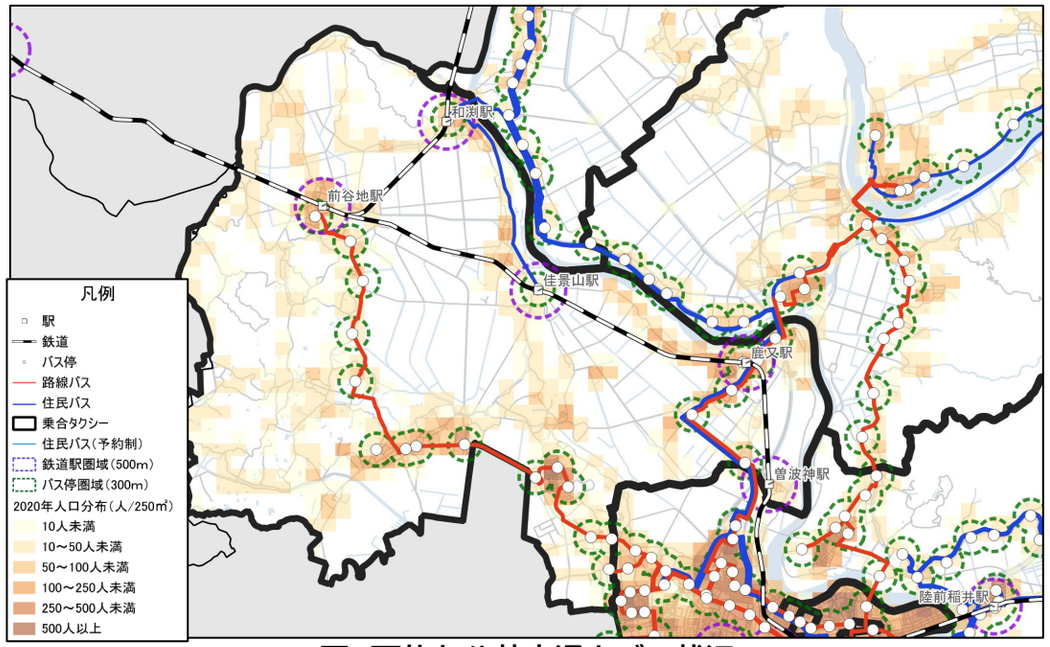


図　面的な公共交通カバー状況

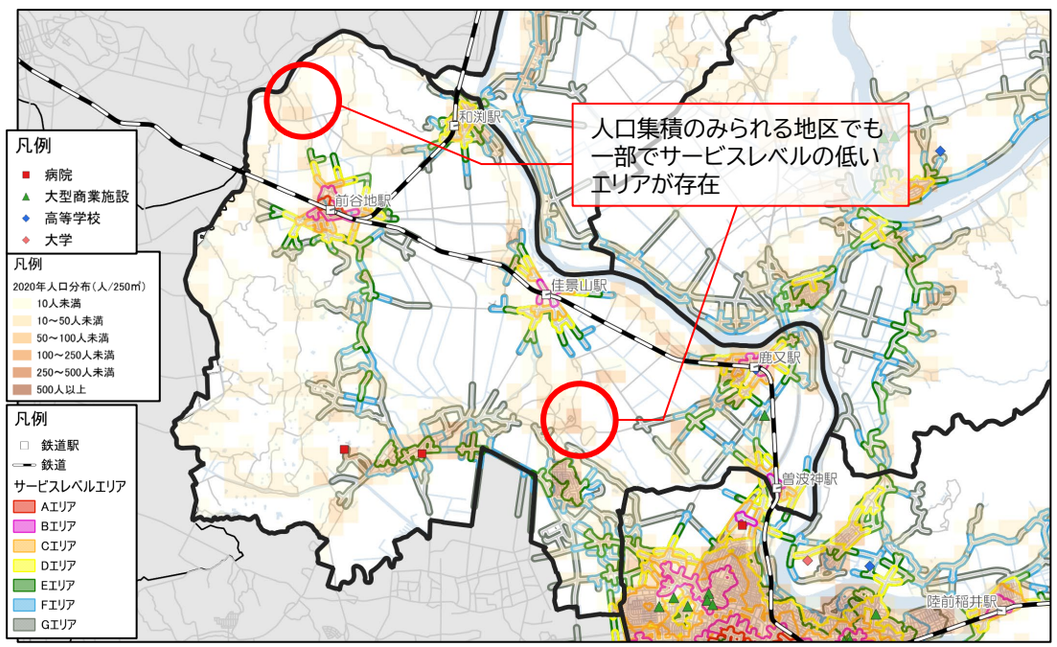


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、隣接する石巻地区のほか、地区内の移動が見られる状況。また、北上地区や河北地区からの移動の目的地となっている状況。
- 通学移動実態は、地区内に所在する石巻北高校へ地区内・地区外から通学しているほか、石巻地区、市外（主に石巻西高校）への通学が多くみられる状況。

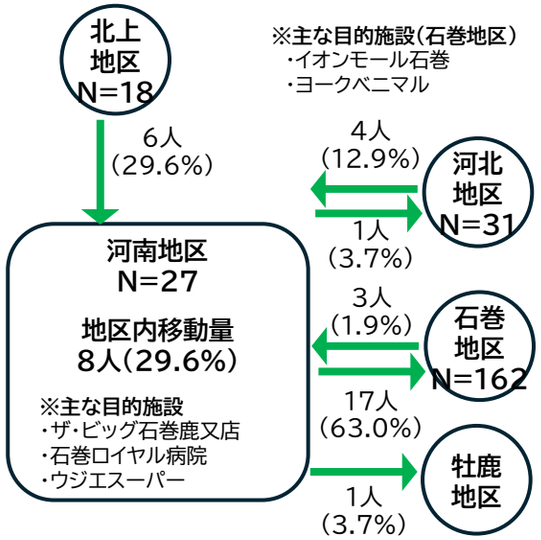


図　日常生活の移動実態

※R8市民アンケート調査をもとに作成

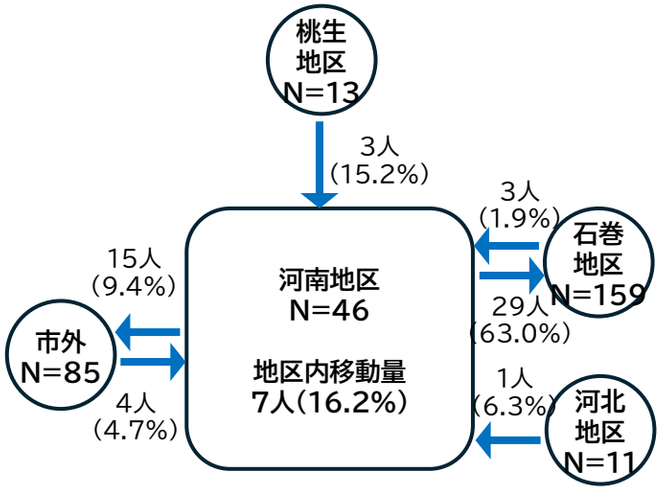


図　高校への通学の移動実態

※R8高校生アンケート調査をもとに作成

■地区の課題

〇面的カバー・サービスレベルの視点

- 河南地区乗合タクシーが曜日限定で運行し、運行日は全域がカバー。
- 人口集積があるが、JR線・ミヤコーバス河南線から外れる須江、西谷内などの一部においてサービスレベルエリア外となる範囲が存在。

〇地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内：月・火・金曜日は河南地区乗合タクシーで移動できるが、それ以外の曜日は移動手段がない状況。また、河南地区乗合タクシーの運行時間外（16時以降）は、ミヤコーバス河南線・タクシーのみに限られる状況。
- 地区間：JR石巻線は6時台～22時台まで運行。一方、ミヤコーバス河南線は朝は7時台から運行されるが、夕方は石巻駅前17:50発で終了し、河南線沿線エリアは夜間帯の交通空白が生じている状況。

〇その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 国道108号のバイパスとして、南北7.8kmの石巻河南道路が計画され、2025年に着工している。
- 2031年を目途に、地区内の北村小学校を閉校し、広渕小学校へ統合する方針である一方、市内7地区の中では最も年少人口割合が高い状況（11.1%）であり、今後も通学需要が見込まれる。

■市民アンケートの地区別分析

- 最近3ヵ月の公共交通の利用有無は「利用している」が7地区中2番目に多く、最後に公共交通を使った時期が5年以内の人は石巻地区と並んで多く6割を超えている。
- 改善要望として「便数が増える」「自宅近くまで来る」などの意見。
- 市内の公共交通への要望・意見として「一度も利用したことがない子供たちが増えているので、興味・関心を持てるようなイベント等を企画してはどうか」「鹿又駅へのSuica導入」「鹿又大巻地区の人口増加への対応」などの意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
地区内交通及び地区間交通の面的・時間的交通空白の改善が必要	〇前谷地駅・鹿又駅での鉄道とバス・乗合タクシーの結節機能の維持、待合環境の改善 〇ミヤコーバス河南線の維持 〇地区内の二次交通の改善策の検討 ※事業者による対応が困難な場合、地区主体での自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）なども考えられる。（地区の意向が重要）

5. 桃生地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	6,634人（市全体に占める割合：約4.8%）
公共交通カバー人口	6,634人（地区の人口に占める割合：100.0%）
運行する公共交通	その他：桃生地区住民バス2路線（桃生イオンモール石巻線、桃生佳景山線）、桃生デマンドタクシー、河北地区乗合タクシー

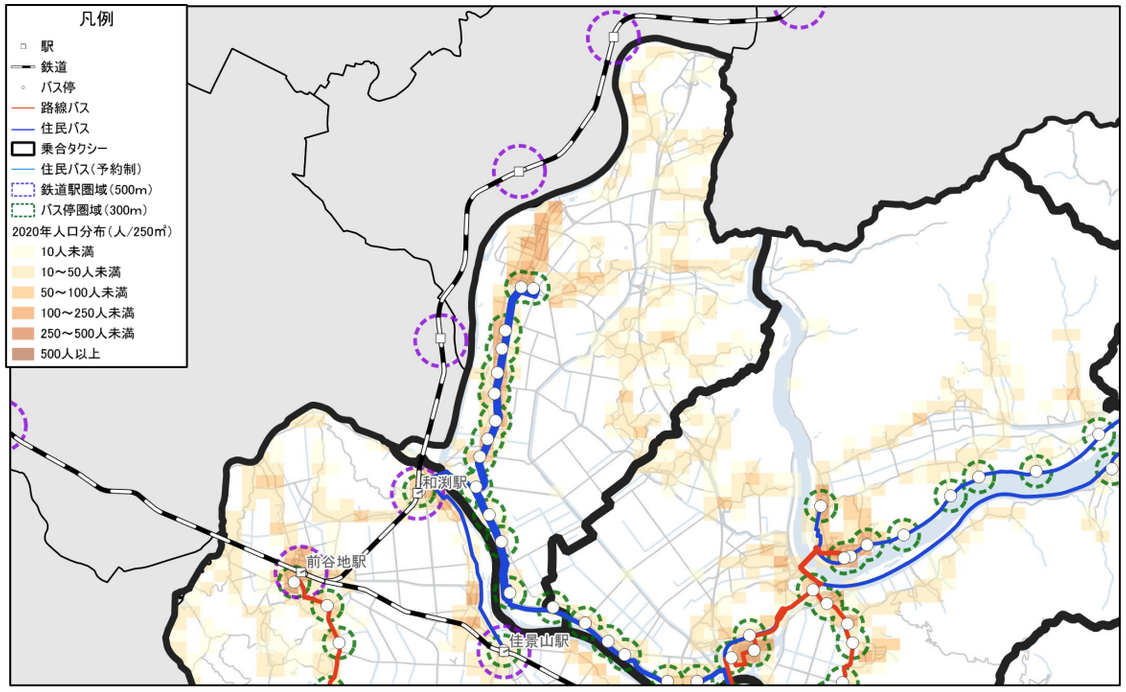


図　面的な公共交通カバー状況

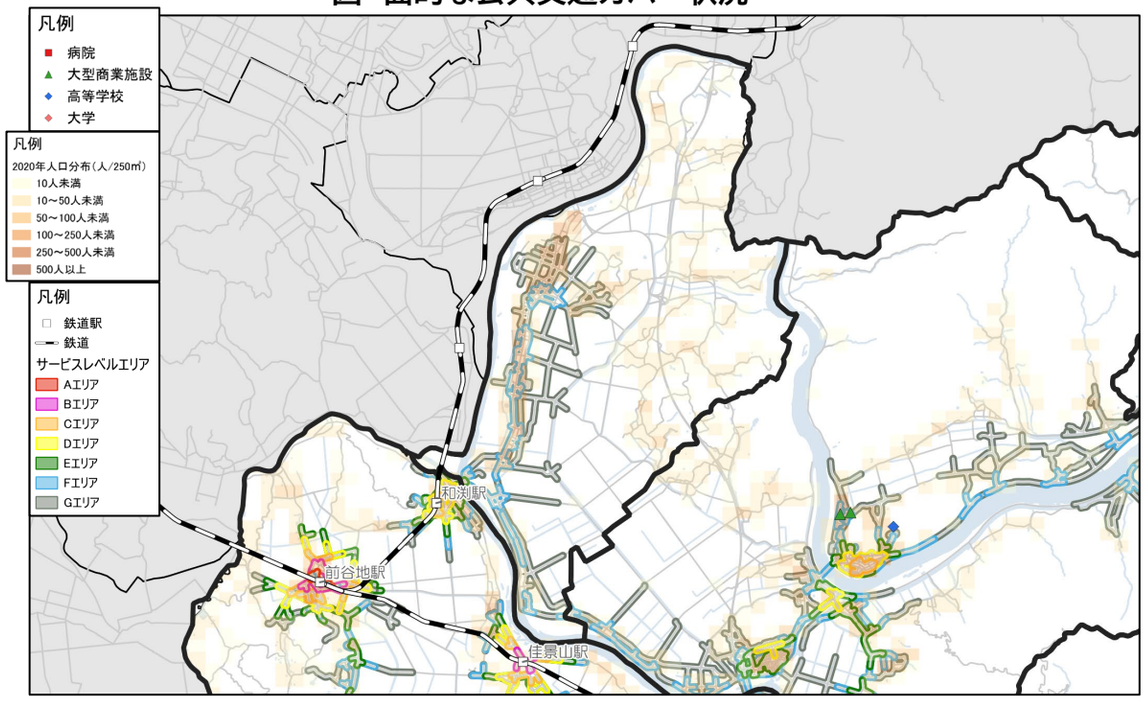


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、隣接する石巻地区への移動、地区内の移動が見られる状況。
- 通学移動実態は、地区内に高校がないため、石巻地区や河南地区、市外へ通学している状況。

※目的施設（石巻地区）
・イオンモール石巻
・サンエー石巻あけぼの店
・トライアル石巻店
・DCM
・薬王堂
・ギフトプラザ石巻店
・あいのや
・サンドラッグ石巻中里店
・石巻赤十字病院

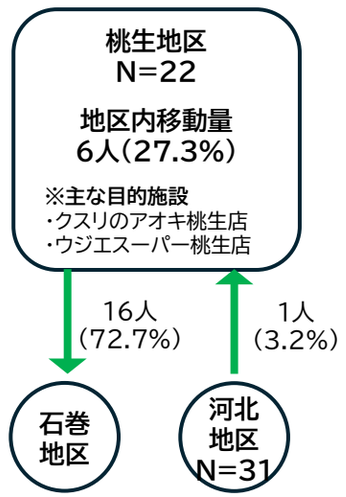


図　日常生活の移動実態

※R8市民アンケート調査をもとに作成

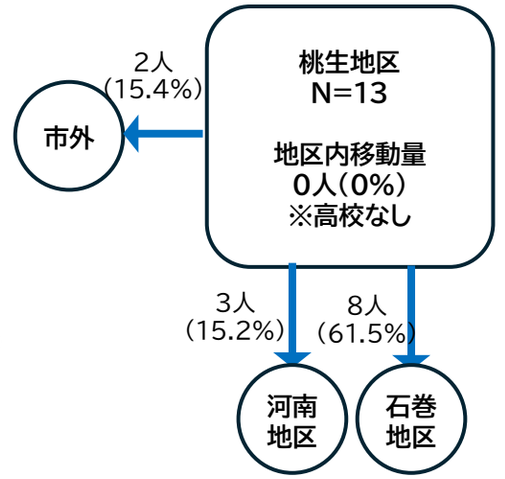


図　高校への通学の移動実態

※R8高校生アンケート調査をもとに作成

■地区の課題

〇面的カバー・サービスレベルの視点

- R7に個別輸送のワンコインタクシーから乗合のデマンドタクシーに移行し、週3⇒5日運行へ拡充されるなど、利便性が向上。
- 住民バス2路線が総合支所を起終点に運行しており、総合支所以北（寺崎地区）でも一定以上の人口集積がみられるものの、サービスレベルは低い状況。

〇地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内：桃生デマンドタクシーが平日は毎日運行し、地区全域をカバー。
- 地区間：桃生デマンドタクシーが和渕駅まで運行され、JR気仙沼線に接続。住民バスイオンモール石巻線が2往復運行され、午前中の外出手段は確保されているが、午後は地区内から地区間のアクセスがしづらい状況。

〇その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 地区内の3小学校が統合し、2024年より「桃生小学校」が開校。加えて、住民要望を受けて桃生地区小中一貫校教育基本構想の策定に向けて協議中。
- 第二次総合計画では、桃生豊里IC付近で産業団地形成を重点施策として位置づけ、将来的に新規通勤需要が発生する可能性（主に自家用車通勤）。

■市民アンケートの地区別分析

- 最近3ヵ月以内の公共交通の利用の有無は「利用していない（86.8%）」が多い。
- 改善要望として「自宅近くまで来る（41.5%）」「目的地まで乗換なしで行ける（26.4%）」などの意見。
- 市の公共交通への要望・意見として「住民バスとワンコインタクシーだけでは行きたい場所に行けない」「ほとんど意識して生活してきていない」「帰りの午後の便がなくて不便と聞く」「過疎地域の意見も聞くべき」等の意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
地区内交通・地区間交通の乗り継ぎ利便性の確保が必要	**〇デマンド型交通への統一** ※定路線型の利用実態（日常的な利用の有無）を確認の上で、日常利用が無い場合には定路線型の運行からデマンド型交通への運行へ統一を図ることを想定。 ※地区間の移動がみられる時間帯については、イオンモールや佳景山駅までの利用を可とするなども検討。

6. 北上地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	2,152人（市全体に占める割合：約1.6%）
公共交通カバー人口	1,437人（地区の人口に占める割合：66.8%）
運行する公共交通	その他：北上地区住民バス

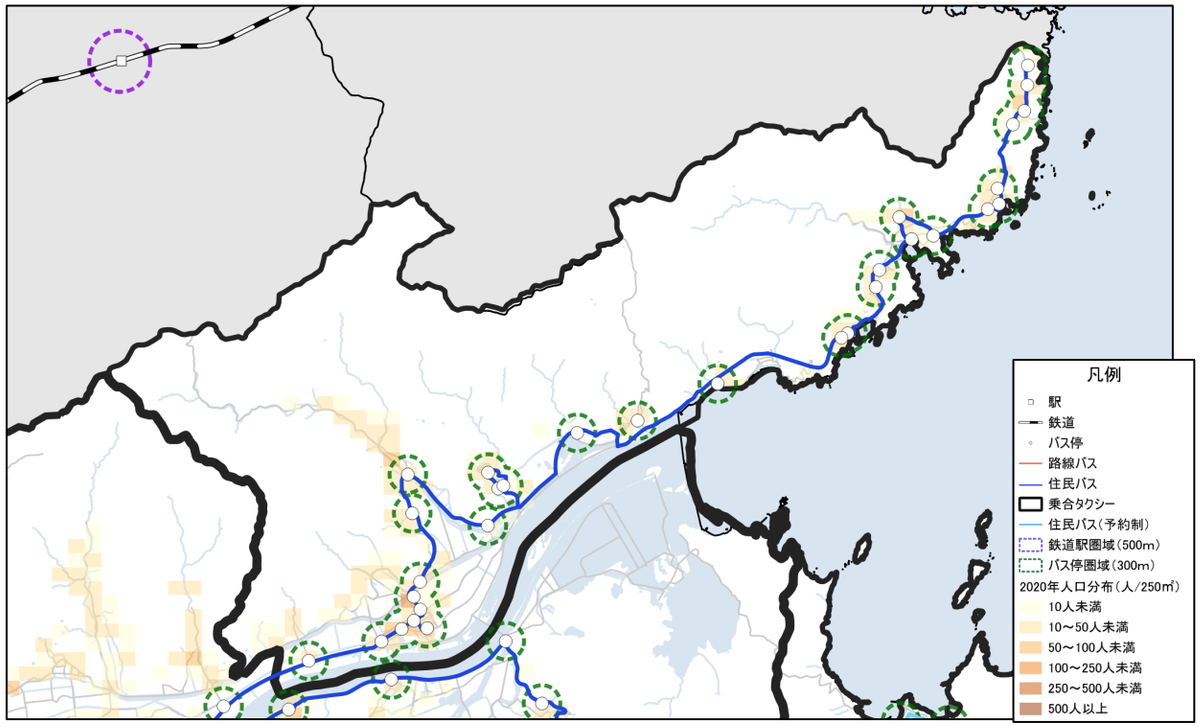


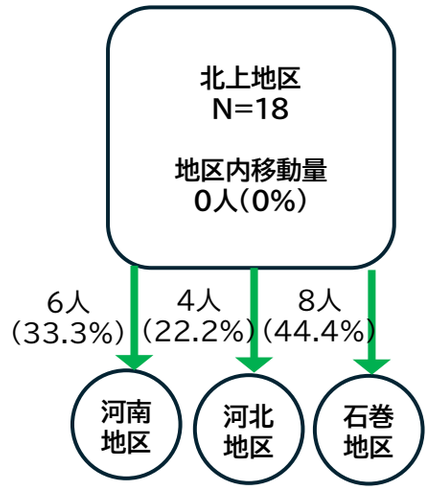
図　面的な公共交通カバー状況



図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、地区内に病院・スーパーがなく、隣接する河北地区、中心部の石巻地区等へ移動している状況。
- 通学移動実態は、地区内に高校がないため、石巻地区や市外へ通学している状況。



※目的施設（河南地区）
・ザ・ビッグ石巻鹿又店
・石巻ロイヤル病院

※目的施設（河北地区）
・ウジエスーパー飯野川店
・コメリ宮城河北店
・ツルハドラッグ石巻河北店

※目的施設（石巻地区）
・イオンモール石巻
・サンエー石巻あけぼの店
・みやぎ生協蛇田店
・DCM
・石巻赤十字病院

図　日常生活の移動実態

※R8市民アンケート調査をもとに作成

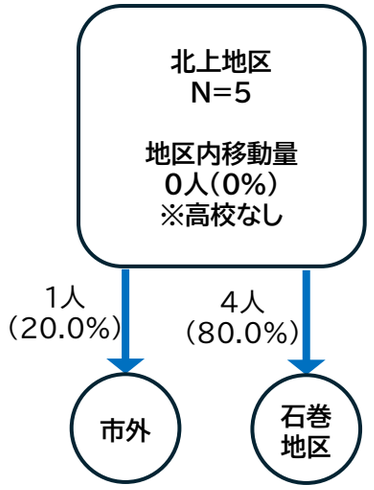


図　高校への通学の移動実態

※R8高校生アンケート調査をもとに作成

■地区の課題

〇面的カバー・サービスレベルの視点

- 当該地区は、北上地区住民バスが国道398号沿いを運行し、人口の6割以上はカバーされているものの、国道から外れた地区の一部が空白地になっていると想定される。
- 上記のとおり1サービスのみ運行しており、運行便数も比較的少ないため、サービスレベルはFまたはGに留まる。

〇地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内：保健医療センターや総合支所へ住民バスを活用した移動がみられる。
- 地区間 ： 始発の鹿又駅利用者が多く、JRとの乗継で通勤・通学に利用されている。2便目にはイオンモールや赤十字病院への利用も一定数存在するが、1往復のみとなっているため利用ニーズとマッチしているのか検証が必要。

〇その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 雄勝地区に次いで地区人口が少なく、R8年度中には橋浦地区の市営住宅等が移転対象となっている。
- 当該地区は北上川河口付近の高台に位置する北上にっこり団地内に生活拠点が形成されており、総合支所・公民館・北上小・多目的広場等が一体的に整備されている。

■市民アンケートの地区別分析

- 最近3ヵ月以内の公共交通の利用の有無は「利用していない」が全地区で最も多い一方で、過去1ヶ月以内に移動手段等の都合で外出を諦めた経験は「ない」とする回答がほとんどであり、公共交通の利用習慣が低いエリア。
- 改善要望として「自宅近くまで来る」「目的地まで乗換なしで行ける」などの意見。
- 市の公共交通への要望・意見として「高校生の通学への対応を維持」「住民バスは残してほしい」等の意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
通院・通学などの日常生活を支える地区間交通の維持が必要	**〇地区外への移動需要に応じた運行内容の見直し** **〇利用の少ない時間帯の便の振り替え**

7. 牡鹿地区

■公共交通の運行状況等

項目	概要
地区の人口	1,850人（市全体に占める割合：約1.3%）
公共交通カバー人口	1,767人（地区の人口に占める割合：95.5%）
運行する公共交通	バス：ミヤコーバス鮎川線（石巻駅前・イオンSC石巻東～鮎川港）1日6往復運行 その他：牡鹿地区市民バス4路線、網地島ライン、金華山フェリー

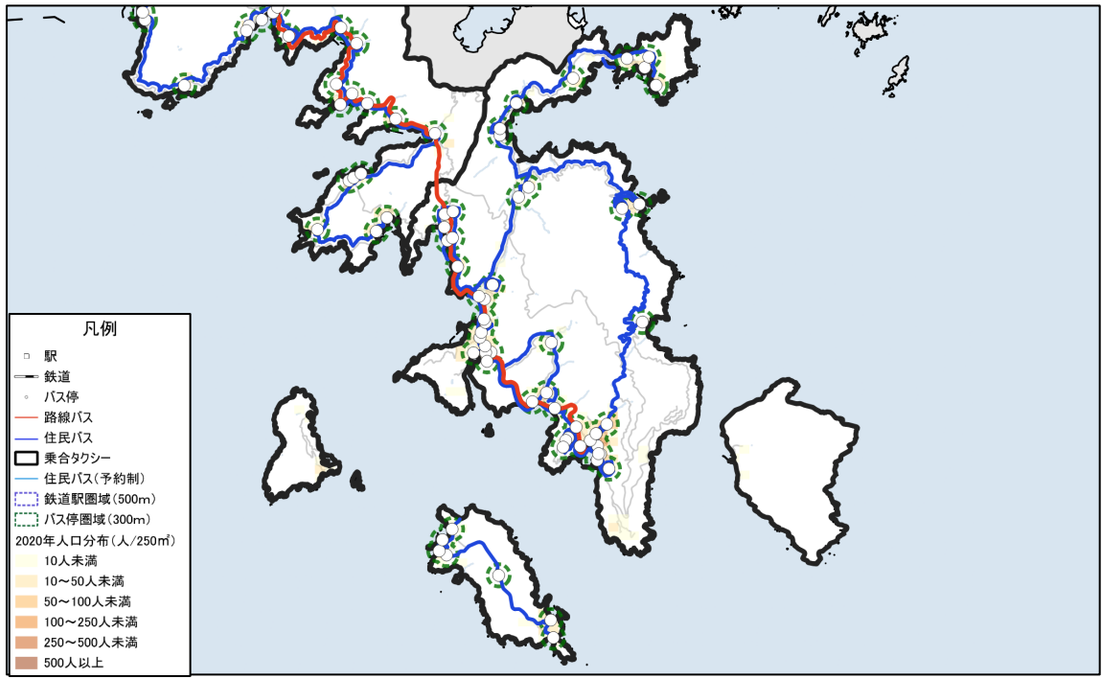


図　面的な公共交通カバー状況

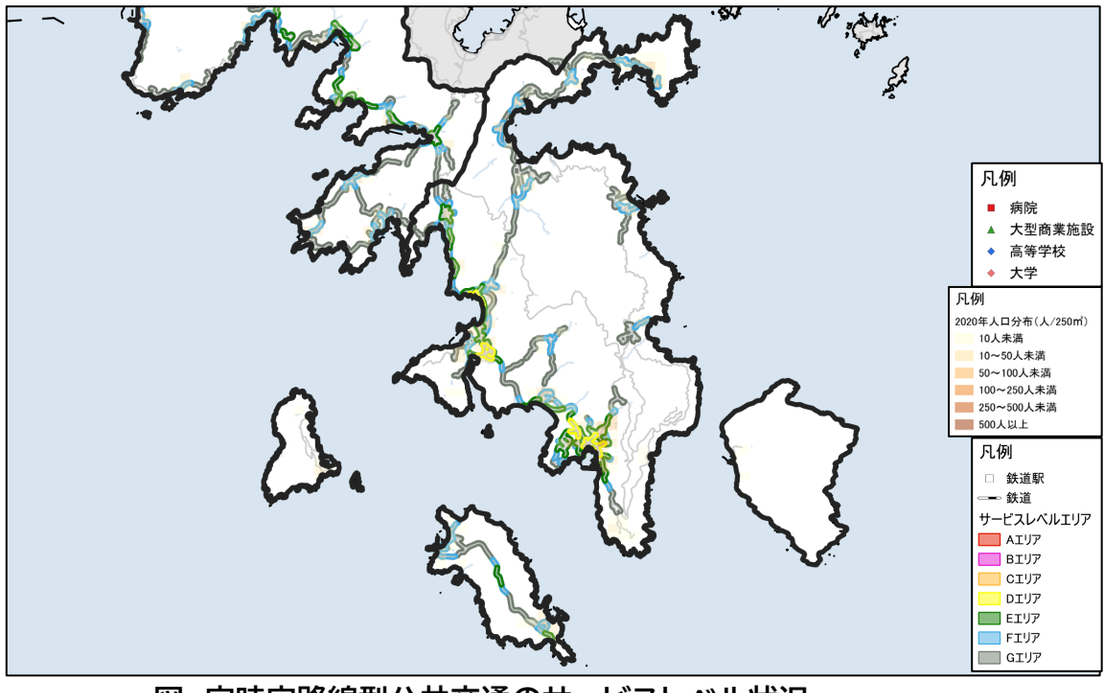


図　定時定路線型公共交通のサービスレベル状況

■地区間の移動実態等

- 日常生活の移動（買物・通院先）では、地区内に病院・スーパーがなく、中心部の石巻地区等へ移動している状況。
  ※通学移動実態は回答者なし。

※目的施設（石巻地区）
・ヨークベニマル石巻蛇田店、湊鹿妻店
・カワチ薬品石巻蛇田店
・イオンモール石巻
・あいのや渡波店
・アポロステーション渡波
・薬王堂
・石巻赤十字病院
・石巻市立病院
・よしだファミリー歯科
・まこと鍼灸整骨院
・石巻アニマルメディカルセンター

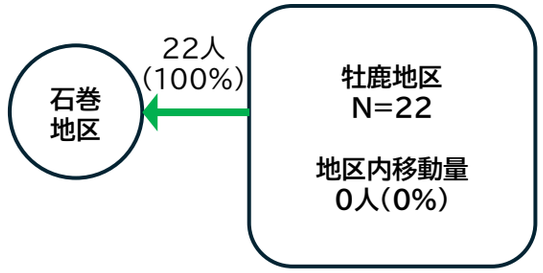


図　日常生活の移動実態
※R8市民アンケート調査をもとに作成

■地区の現状

〇面的カバー・サービスレベルの視点

- ミヤコーバスに加えて住民バス・フェリーが運行し、居住人口のほとんどを面的にカバー。
- ミヤコーバスは1日6往復、住民バスは1日3.5～5往復程度運行され、間隔が空く時間帯はあるが概ね朝～夕方までを広くカバー。

〇地区内移動・地区間移動の視点

- 地区内：住民バス3路線が地区中心部まで直接運行し、一定の利便性は確保されている。
  令和8年4月1日より、定期券の発行対象範囲を高校通学者のみから、全ての利用者に拡大し、小学生の通学など利便性の向上が図られている。
- 地区間：住民バスの朝便がミヤコーバスへ接続し、石巻地区への移動手段を確保する一方、午後便で乗継しにくい便も散見。ミヤコーバスは18:30石巻駅発まで運行しているが、接続する住民バスが16時台で終了し、鮎川線沿線エリア以外は夜間帯の交通空白が発生している状況。

〇その他（地区ごとに留意すべき視点など）

- 3小学校の統廃合について地区と協議が行われている。
- 震災後、沿岸部において人口が大幅に減少したことに加え、老年人口が52.9%となっており、雄勝地区に次いで高齢化が進行。
- 地区内にタクシー事業者がなく、市民バス・ミヤコーバスが利用できない時間帯は家族等の送迎に頼らざるを得ない状況。

■市民アンケートの地区別分析

- 最近3ヵ月以内の公共交通の利用の有無では「利用した」が25.7%で7地区中4番目に多い。
- 「公共交通を最後に使った時期を覚えていない」「公共交通を使ったことがない」が32.0%で7地区中2番目に多い。
- 改善要望として「便数が増える」「最終便が遅くなる」「目的地まで乗換なしで行ける」などの意見。
- 市の公共交通への要望・意見として「鮎川線は人が乗っているのを見たことがない」「離半島部は自家用車がないと生活に支障をきたす」「自宅から目的地に行けるタクシー的な使い方をしたい」等の意見。

地区の課題	課題解決の方向性（案）
地区内・地区間交通の面的・時間的交通空白の改善が必要	**〇路線バス（鮎川線）に接続する住民バスのダイヤの見直し** ※事業者による対応が困難な場合、地区主体での自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）なども考えられる。（地区の意向が重要）